

修士設計要旨

都市型積層集合住宅の設計

～高知市を事例として～

社会システム工学コース

1175098 浦本信之介

本修士設計では、かつての都市に存在した、その都市ならではの集住の在り方を継承することを前提とし、現代の合理的な都市居住の1つである積層型集合住宅として設計、提案することを目的とする。

人が集まって居住する在り方として、高密度に展開されてきた都市居住。職場と住まいが近接する中で人は営み、その都市の気候や制度、文化などの環境に上手く適応した、その都市ならではの魅力的な集住の型を作り上げていた。

しかし高度経済成長期以降、都市には働く場所が高密度に押し込められる一方、住まいは郊外へと追いやられ、スプロール現象を誘発。郊外と都市を行き来するという効率の悪い生活が生み出された。都市にわずかに残された土地に住まおうと、編み出された積層集合住宅は都市居住の主流となったが、かつての魅力的な都市居住の姿は姿を消してしまった。

かつて都市に存在した都市型居住の魅力を取り戻す術を探りながら、すでに高密かつ高層化してしまった都市を地盤に、現代においての都市居住の魅力が展開、提案される必要があるのではないか。

本設計では、高知市街地にある1街区を対象とした提案を行う。

Abstract

The design of urban-type condominium

-A study in Kochi city-

Infrastructure Systems Engineering Course

1175098 Shinnosuke Uramoto

This is master's design aimed at propose urban-type condominium inherit from endemic former style of complex housing.

People have been developed urban-type housing. They lived near where they work and created endemic complex housing style adopted environment, institution and culture.

But, they lost land for living in the city. Because city was filled with place of work after Japanese economic activities. A condominium was thought out and replaces attractive endemic former style of complex housing.

It is necessary to propose urban-type condominium in the high-density and high-rise city to regain attractive endemic former style of complex housing.